

佳作

水のない世界

阿南市立那賀川中学校 三年 山田 愛音

朝、目を覚まして蛇口をひねると、カラカラと音を立てて空気だけが流れ出た。洗面所の鏡に映る自分の顔は眠そうで、肌も乾いて見える。水が出ない朝。それはほんの少しの不便かもしれない。しかし、その不便が一日中続き、やがて毎日になるとしたらどうだろう？

私はふと思った。もし、水が地球から本当になくなってしまうたら、私たちはどうなるのだろうか。

水は、私たちの生活のあらゆる場面に深く関わっている。飲み水としてはもちろんのこと、料理や洗濯、掃除、そして農業や工業にも使われている。植物は水がなければ育たないし、動物も水がなければ生きられない。人間の体の約六十%は水でできているとも言われている。つまり、水がなければ、私たちは生きることさえできないのだ。

私は「水のない世界」を想像してみた。空には雲がなく、太陽の光は容赦なく大地を照らす。地面はひび割れ、草木は枯れ果て、動物たちは姿を消した。人々はわずかな水をめぐって争い、国と国との間でも水資源をめぐる戦争が起きている。学校には水道がなく、手を洗うこともできない。食べ物の量も減り、病気がひろがる。そんな世界では、笑顔さえも見えなくなってしまうかもしれない。

そんな未来が本当に来るのか。そう考えると、私は少しぞつとした。けれど、世界にはすでに「水不足」に苦しむ国や地域がある。アフリカの一部では、毎日何キロも歩いて水をくみに行く子どもたちがいると聞いた。しかし、その水も決してきれいではなく、飲めば体をこわすこともあるという。私たち日本人にとって「水道をひねれば水が出る」はあたりまえのことだが、それは世界のすべての人にとってのあたりまえではないのだ。

では、なぜ水が不足するのだろうか。原因はさまざま。人口の増加や経済の発展に伴って水の消費量が増えたこと、工場や農地からの排水による水質の悪化、そして気候変動による干ばつや異常気象なども関

係している。とくに地球温暖化は、氷河を溶かし、海水の蒸発をふやし、雨の降り方を変えてしまう。水の循環が乱れることで、水資源はどんどん不安定になっているのだ。

では、そんな未来をふせぐために、私たち中学生に何ができるのだろうか。私たちはまだ子どもで、大きな力はないかもしれない。でも、だからこそ、今から「水を大切にすること」を育てていくことが大切なのではないかと思う。たとえば、歯みがきのときに水を出しっぱなしにしない、シャワーを使いすぎない、洗濯の回数を減らすなど、小さな行動の積み重ねが未来を守る力になる。

また、身近な人と水について話すことも、自分にできる行動の一つだと思う。家族や友だちに「水って大切だね」「こんなふうに節水してるよ」と伝えることで、少しずつ意識が広がっていくかもしれない。大人になったとき、政治や環境について考え、行動できるようになるための「土台」は、今作られているのだと思う。

水はただの透明な液体ではない。命そのものだ。私たちが生きるために欠かせないものであり、美しい自然をつくる力でもある。だからこそ、「水のない世界」をただの空想に終わらせてはいけない。そうならないように、今できることを一つずつ始めていきたい。

私たちは、毎日のように水を使って生きている。でも、これからは何も考えずに使うことはしない。その一滴の価値がどれほど大きいかを知ったからだ。

水は、未来から借りている大切な資源。目の前にある水を「あたりまえ」と思わず、これからも感謝の気持ちを忘れずにいたい。

水とともに生きる未来を守るために、私はこれからも行動し続けたい。